

氏名	井上 誠 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4343 号
学位授与の日付	平成22年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Elevated level of serum retinol-binding protein 4 in pregnancy-induced hypertension (妊娠高血圧症候群において血清4型レチノール結合蛋白 (RBP4)値は上昇する)
論文審査委員	教授 伊藤 浩 教授 榎野 博史 准教授 松浦 栄次

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【目的】Retinol binding protein 4(RBP4)が妊婦における耐糖能調節に関与しているか否かを明らかにするために妊娠中のRBP4濃度の変化について、主に妊娠高血圧症候群(PIH)症例と併せて検討した。

【対象と方法】当院にて管理した正常妊婦、妊娠中・後期の重症PIH妊婦を対象とし、Western blotting法およびDot blot法を用いて血清RBP4を測定した。また臍帯血においても同様に測定した。

【結果】血清RBP4は妊娠中において初期より中・後期に低下する傾向にあった。血清RBP4値は正常妊婦よりPIHにおいて有意に上昇した。また臍帯血中RBP4は正常妊婦と比較し、PIH症例やあきらかな子宮内発育遅延の原因を認めないlight for dates児において低値を示した。

【考察】妊娠中のインスリン抵抗性は後期にかけて明らかとなるが、RBP4とは別の機序を介していることが示唆された。PIH症例では血中RBP4レベルは上昇し、妊娠中の過剰なインスリン抵抗性の発現との関連が示唆された。臍帯血中RBP4は、胎児の低栄養状態を反映している可能性が推察された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はアディポサイトカインの一つであるretinol binding protein 4(RBP4)の正常妊婦における変動、妊娠高血圧症候群との関係、そして臍帯血におけるRBP4と胎児発育との関係を検討したものである。正常妊娠においてRBP4は妊娠中期から後期にかけて低下し、妊娠中の体重増加とも有意な相関は認められなかった。正常妊娠に比べ妊娠高血圧症候群ではRBP4が高値を示した。さらに、妊娠高血圧症例から生まれた乳児あるいは低体重児の臍帯血中のRBP4は正常児のそれよりも低値であり、RBP4のturn overの時間を考慮すると、低栄養を示唆する指標となりうることを示した。RBP4という新しい物質の正常妊娠における動態、妊娠高血圧症候群における変動、そして臍帯血における計測の意義を明らかとした有用な研究である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。